―上越のマッターホルン―

「大源太山、コブ岩尾根」

【中退】10 年 1 月 30~31 日

L 後藤　西村（文）他 1 名

厳冬期に一度は登りたかった大源太山、コブ岩尾根に挑戦することになった。標高こそ低い（1598m）が、雪の多さと急峻な岩峰は山行意欲を限りなく駆り立てる。

清水で前夜泊、時々青空がのぞくまずまずの天気の下、単調な林道を輪カンでひたすら歩く。他パーティーのトレスを期待したが生憎入山したのは我々のみ。雪は湿っぽく思ったほどもぐらない。深くて膝下ほどだ。それでも以前 3 月に登ったことのある後藤さんによると、積雪は比べものにならないほど多く、前途は多難だという。案の定、丸の沢出合まで 4 時間もかかってしまった。

丸の沢に入ってから何度も徒渉するのだが、2 度目の徒渉で西村がスノーブリッジを踏み抜き沢に転落、幸い殆ど濡れることなく脱出できたが、冬の徒渉はやはり怖い。

昼過ぎコブ尾根取り付き、情報によるとすぐ尾根に取り付かず、少し沢を登ってから取り付くと楽とのこと。情報通り尾根末端を少し巻いて尾根に上がる。

雲間から時折見せる白銀の大源太の岩峰に目を見張りながら、快調に高度を稼ぐ。樹林が消えたところでアイゼンに履き替えコブ岩下のコルのテン場を目指す。しかし、下から見ていた感じより楽ではなく、深い雪と急な斜面、雪庇に神経を使う。極めつけはシャクナゲの雪壁。アリ地獄のように雪は崩れ足元が決まらない。掘り出した藪を手掛かり、足掛かりにしてやっとのことで登る。ノーザイルなのでかなり緊張する。落ちた場合、深雪なので下まで落ちることはないと思われるが、雪崩を誘発してそれに巻き込まれる可能性がある。

何とか時間内にテン場まで行けそうに思っていたが、思いの外時間がかかり小岩峰手前あたりから焦り始める。時計の針は３時を過ぎている。小岩峰上のナイフリッジを時間短縮のためノーザイルで通過するも、その上の雪壁が例のシャクナゲの蟻地獄でもがき苦しむ。ここさえ通過すればテン場だと信じてやっとの思いで這い上がると、なんとそこから延々とナイフリッジが続いているではないか・・・。

何の迷いもなくフォストビバークを決定、幸い雪壁下（標高 1280m）に僅かな空間があり雪を切り出して何とかテントを張ることに成功。やはり厳冬期多雪の大源太は甘くない。今回の場合、予備日が必要だった。

登頂は断念し翌日往路下山。ビバークポイントからスタカットで５ピッチ、慎重に下る。ザイル下降のよい勉強になる。林道に出てからも我々のトレスが何カ所か雪崩に消されており、かなり緊張した。

悔しいが再度挑戦することを約して、大源太山を後にする。

＜コースタイム＞

清水 ― ４時間 ― 丸の沢出合

丸の沢出合 ― １時間半 ― コブ尾根取り付き

コブ尾根取り付き ― ４時間 ― 小岩峰上テラス（標高 1280m）

＜左上＞　コブ岩下のナイフリッジの下降、ピナクルで西村を確保

＜左下＞　大源太山東面、左側がコブ尾根

＜右上＞　辛うじてのビバーク、トイレで落ちないよう細心の注意

＜右下＞　ビバークポイントから見たコブ尾根、下降しているのは後藤さん